



第 84 号
 発行所
中部ペンクラブ事務局
 〒463-0013 名古屋市中村区小幡中3-4-27
 TEL&FAX (052)794-3430
 編集委員長：中村賢三
 製作：(株)総研

第12回公開シンポジウム
『中部へん』 第31号を読み文学を語る

司会 国府 正昭 (ムーの会)
 パネラー 中田 重顕 (文宴)
 白井 康 (弦の会)
 堀田明日香 (芸文未満)
 藤高あつ子 (海)
 今泉佐知子 (果樹園)

含め31名。国府正昭さんの司会によりパネラーからの丁寧な解説があり、会場からの活発な発言も相次いだ。

●受賞作「忘れ雪」(弦114号)

小森 由美 作

(まとめ) 国府正昭

本年度の中部ペンクラブ文学賞受賞作を中心テーマとするシンポジウムは、9月15日、愛知芸術文化センターにて開催された。一般参加者を

パネラーを務めた中田重顕氏から当日の発言内容をさらに整理した「小森由美『静謐』の文学」という小論を後日編集部に届けていただいたので、その要旨をまず紹介したい。

〈文学の本質はやはり、人が生きることの悲しみ、切なさ、不条理を描くことにあると思う。昭和の古い人間の文学観と笑われるだろうが、僕はそれを信じている。〉

小森由美さんの文学に、あるいはその来し方にそのような思いがたまたよっていると思う。ゆえに小森さんの文学に惹き付けられるのである。よく生きた、と励ましたい気になるのである。……中略……

やがて、彼女は、「レクイエム」という作品集に自己の文学を結実させる。夫の死後九ヶ月から書き始めたが、生身を剥くような思いで書かれたのに違いない。

第38回中部ペンクラブ文学賞募集

中部圏(注1)の文学の活性化を図るとともに、現代小説に新風を吹き込むことを目的として、創設された文学賞です。同人雑誌、個人誌、単行本に発表された短編小説(注2)を対象としています。インターネット、電子書籍等、電子による発表作品は対象外です。

応募作品発表誌、作者の住所、所属する同人雑誌(注3) 作者の活動拠点(注4)の何れか一つが中部圏であれば誰でも応募できます。本人の応募はもちろんですが、同人雑誌の主宰者や代表の方、友人知人から応募していただくこともできます。お声を掛けていただくなど、多方面からより多くの作品を期待しています。(注1)中部圏 愛知 三重 岐阜 滋賀 静岡 長野 福井 石川 富山 (注2)短編小説 400字詰め原稿用紙算150枚まで (注3)所属する同人雑誌 必ずしも応募作品発表同人雑誌でなくても、作品発表等活動があればよい (注4)作者の文学的活動拠点 文芸教室、通常行われている合評会の開催地等

■応募要項抜粋 (詳細は会報84号同封のチラシ)

規定…二〇二三年一月から二〇二四年十二月の二年間に発行された雑誌の作品で、連載作品は最終回がこの期間内。単行本の短編集は一作品を指定。応募は一人一作品。中部ペンクラブ会員外の応募者は三千円の出品料が必要。応募用紙・チラシ裏面又はHPあいちウェブ文学館から締切…二〇二五年一月十五日(当日必着のこと)

表彰…二〇二五年六月中部ペンクラブ総会、賞状と賞金一〇万円・及び中日新聞社賞状(結果は四月下旬頃、本人と各新聞社に発表)

選考委員…清水良典 堀田あけみ 竹中忍
 応募宛先…〒463-0013 津市高茶屋小森町一六七―三二
 松嶋 節

今回の中部ペン文学賞を受賞された「忘れ雪」もこの「レクイエム」の流れだと思ふ。

愛する者を失うという、文学の永遠のテーマが美しい文章に昇華されている。そして、浮かび上がってくるのは「静謐」という文言である。「レク

【次ページへ続く】